令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

企画部秘書課

企画部長 山田 宰

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
01-002	国際交流事業	あり	C	国際交流団体と連携し、姉妹都市からの高校生受入、書画展の開催等、市民の国際理解を高める取り組みを推進してきたが、一部目標が達成できなかった。日本語教室受講者数の減少は、コロナウイルスの影響で3月分が開催できず例年より回数が少なかったこと等が要因である。新たな受講者は増え続けており、ニーズの減少ではないと考えている。 また、本市在住外国人人口は増え続け、地域における課題や問題もそれに比例して増加しており、生活支援の充実が求められている。	改善 推進	令和元年度に策定した半田市多文化共生プランをもとに、多文化共生事業については、今後、市民協働課が主管課となるが、国際交流事業とのすみ分け、整理が必要である。半田国際交流協会の行う多文化共生と、行政として市民協働課が実施する多文化共生事業が良い形で進められるよう、事業や役割の分担を調整していく。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
C	多文化共生及び国際交流の推進に向け事業を行ったものの、目標値は達成できなかった。日本語教室受講者数は、日程等の影響で減少したものの外国籍市民人口は増加傾向にあり、引き続き法改正や企業等の状況を注視して対応していく必要がある。令和元年度には半田市多文化共生プランを策定し、多文化共生事業については、市民協働課へ所管替えした。関係団体への引継ぎを行い、多文化共生と国際交流の分担を明確にしたい。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	国際交流団体等と連携を取りながら日本語教室を開催するなど暮らしやすい環境づくりを進めている。今後益々、経済活動のグローバル化に伴い外国との交流や外国籍市民の増加が見込まれる中、令和元年度に策定した多文化共生プランに則り、暮らしやすさの向上を目指すとともに、多文化共生推進のための体制づくりを進めるために、行政と関係団体の役割を明確にする。 国際交流においては、令和2年度、3年度と周年事業が続くので、成功させるための準備をしっかりと行うこと。					